

札幌圏 わがまち元気企業

オオイ工務店

札幌市東区

赤れんが庁舎 屋根補修

国の重要文化財・道庁赤れんが庁舎（札幌市中央区）の屋根補修をはじめ、学校改築や市営住宅の改修など、事業



トレーニング室も備えた社屋で経営理念などを語る大井貞雄社長

の8割が官公庁関連。建築業界で深刻な人手不足が続く中、働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいる。

1974年、初代社長の故大井富雄さんが創業。当時は民間住宅建築が中心で、社員は2、3人。体調を崩した父富雄さんを支えるため、大井貞雄社長(63)が1985年、伊藤組土建(札幌)を退社。富雄さんは元気を取り戻し、2001年に亡くなるまで親子一緒に働いた。大井社長は父を「頑固だったが面倒見が良かった」と振り返る。「人に喜ばれる事を口の喜びとする」との社訓は、父の代から変わらない。

道庁赤れんが庁舎との関わりは伊藤組土建に勤務していたころからで、99年には屋根補修を受注した。

今年10月から行われている大規模改修では、工事に直接関わっていないが、担当業者に、れんがや屋根の材料に関する情報を提供するなどしている。

近年は東月寒中の格技場の新築(16年)や札幌大付属病



札幌市東区北14
東14. 2011.
722331331.
資本金2千万円。従業員15人。ホームページは<http://kkoai.co.jp/>

社屋内にトレーニング室も

院のハイブリッド手術室新設工事(13年)、市営宮の沢団地の外壁改修工事(14年)などを手がけた。年商10億2千万円。1級建築士3人と1級建築施工管理技士6人を抱え、「技術レベルは高い」(大井社長)と自負する。

建築業界は慢性的な人手不足が続く。優秀な若者を採用しようと東北地方の大学に向いて会社説明を行い、来春、20代3人を採用できる見通しとなった。

社屋は16年に新築。若い社員らに気持ち良く働いてもらいたいと、3階にトレーニング室を設け、ランニングマシンやベンチプレスなどの機材を配置。シャワー室や休憩室も整備し、屋上には焼き肉ができる憩いスペースをつくった。「社員が身体を鍛えるようになった」とほほ笑む。

会社経営のほか、母校北海高校のOB会幹事長を務め、自身がかなわなかった甲子園出場を目指す後輩たちを支援している。札幌中小建設業協会の副会長として、胆振東部地震で被災した家屋の解体業者探しにも奔走した。

会社はあと10年ほどで、同社勤務の長男(31)に引き継ぐつもりだ。「基本に忠実に、いい建物を造ることが信頼につながる」と力を込める。

(久保吉史)